



FACT BOOK 2014

ファクトブック

DENTSU KYOUSAI SEIKYO

2013年度(第48期)決算のご報告など
(2013年8月1日~2014年7月31日)

CONTENTS

ファクトブック もくじ

01	生協組合員の皆さまへ
02	電通共済生協の概要
03	2013年度の主な出来事
04	I 2013年度（第48期）事業概況
04	1. 経営の概況
05	2. 共済契約の概況
08	3. 財務の概況 (損益の状況・資産の状況・負債と純資産の状況・経営指標・(参考)剰余金の処分)
13	II リスク管理・コンプライアンスの取り組み
13	1. 総合リスク管理体制
14	2. 個人情報保護について
16	3. 勧誘方針
17	4. 反社会的勢力への対応について
18	III 組織の概況および組織運営に関する事項
18	1. 運営機関と機能
19	2. 業務運営の組織(事務機構)
20	3. 役員の氏名および役職名
21	IV 主要な業務の内容
26	V 子会社の業務および財産の状況に関する事項
28	VI 支払共済金実績
32	VII 沿革
34	VIII 社会貢献活動・支援活動
36	IX 附表
36	1. 主要な業務の状況を示す指標
37	2. 直近の2事業年度における事業の指標
39	3. 直近の2事業年度における財産の状況
41	4. 経理に関する指標
42	5. 資産運用に関する指標
44	6. その他の指標
45	消費生活協同組合法施行規則にもとづく索引

端数処理について
件数、金額、構成比等の数値については、
表示単位未満を切り捨てて表示しています。

生協組合員の皆さまへ

私たちが生活する日本列島は、縦に長く北から南までの四季そして自然の恵みが享受できる一方で、海に囲まれた火山国であり、歴史的にも現実的にも、地震、津波、噴火、台風、雪害、そして土砂災害や竜巻、ゲリラ豪雨、河川の氾濫など、あらゆる災害と常に向き合っています。加えて、火災、事故、病気、怪我など、いざとなった時の「安心への備え」は、必要不可欠となっています。

同時に、人口減少と超少子化高齢化社会の進行は、医療、介護、年金を含めた社会保障制度の見直しが必要とされ、公助の在り方と共に、自助のウェイトが高まり、相互扶助を基とします「共助」・「共済」の役割が益々重要となっています。

私たち生協組合員は、同じ職域で働く仲間35万1千人のうち退職者が34.5%を占め、この間現職減、退職増でトータル微増の傾向が続いていますが、中期的には、総体的に減少の予想となっています。このような状況に於いて、「一歩先を見据えた備えと安心を提供し、信頼のブランド力アップ」による、みんなの助け合い「My共済」の取り組みを基本組織および退職者の会と連携しつつ積極的に推進しています。

とりわけ、2014年秋から本格スタートをしました新しい医療・傷害保障制度「Myセーフティ」は、組合員から“ワンストップで低廉な掛金での提供を”との強い要望に応えた商品であり、生命共済とセットでの基盤保障とともに、災害の備えとしての火災共済と自然災害共済（大型タイプ）および事故に備えたマイカー共済など、ライフステージにフィットした「安心・安全」に役立てて頂きたいと思えます。

さらに、生協組合員・家族の皆様の日常生活におけます「こころ・健康・医療・育児・薬・栄養・がん」の心配、悩みなど、困った時に「いつでもどこでも24時間365日」相談できる「メディカル相談ダイヤル」を2014年12月1日からスタートし、生協組合員、家族の皆様のこころと身体の健康を、実績ある外部専門機関がサポートする施策を提供しています。

私たち電通共済生協グループは、職域共済として他の福祉事業体の皆さんと連携・協力しつつ、組合員・家族の皆様にトータルとして福祉サービスを提供するため精一杯の汗をかいて参ります。

合わせまして、社会環境の変化やメガ災害に対応するため、全労済、日本再共済連、単産共済とも課題を共有し、「組合員の安全・安心を支える電通共済生協」として、コンプライアンスを踏まえ、福祉事業を担う役割、使命を果たしていきます。

今後とも、職域生協としてのメンバーシップの絆を大切に
するため、みんなの「My共済」として大きく育てていただき
ます様に、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2014年12月

理事長

加藤 友康

